

ニュースレター (vol. 12, 13 合併号)

平成27年1月発行

NPO 法人あきた菜の花ネットワーク



Akita Nanohana Network
NPO法人あきた菜の花ネットワーク

〒015-0824 秋田県由利本荘市古雪町3 株式会社 HOLIDAY 2階

TEL&FAX : 0184-44-8625 E-mail : tetsu1187pure@yahoo.co.jp

新年あけましておめでとうございます

早いもので1月もあっという間に半月が過ぎてしまいました。会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今回のニュースレターは11月発行予定でした vol.12 と1月発行の vol.13 を合わせ合併号として発行させていただきました。開催時期が少し前のものがあります。何卒ご了承ください。

【H27年1月までの活動報告】

◎「鳥海高原矢島まるごと体験ツアー」 9月6日(土)、7日(日)

9月6、7日の2日間にわたり「鳥海高原矢島まるごと体験ツアー」が行われました。菜の花ネットワークでは「桃野菜の花畑農業体験」ということで菜の花種まき作業、とうもろこしとじゃがいもの収穫体験に携わりました。両日ともに参加者の皆さんが楽しそうに農業体験されていました。特に収穫体験は好評で、収穫したとうもろこしとじゃがいもを抱えきれないほど持ち帰られていました。



◎「第14回あきたエコ&リサイクルフェスティバル」 9月6日(土)、7日(日)

秋田駅前の広場にて9月6、7日の両日行われました。菜の花ネットワークとしての出展でしたが、両日ともにいつも環境学習で一緒に活動している秋田県立大学 秋田キャンパスの学生がブースに立ちました。菜の花の循環や鶏糞ペレットなど学習したことを来場者に情報発信する場となりました。ブースでは菜種と古紙を利用した植木鉢を、菜の花に関するクイズへ回答してくださった方にプレゼントし、好評を得ていました。



◎「秋田県立大学 秋田キャンパス学校祭“松風祭”」 10月18日(土)、19日(日)

秋田県立大学秋田キャンパスの学校祭“松風祭”が10月18日と19日に行われました。今年は恒例の「菜種の搾油」に加え、桃野の畑で収穫した「野菜の販売」とその野菜のひとつでもある「じゃがいもの試食+マヨネーズ食べ比べ」を企画しました。



ほくほくの桃野産じゃがいもに、今回新商品として販売した菜種油使用の手づくりマヨネーズと市販のマヨネーズをつけて試食していただきました。その結果じゃがいもの美味しさ、そして手づくりマヨネーズの評価も高く、両方ともに売上げが好調でした。1つの単独での出展ではなく、



全てが繋がっている“菜の花の循環サイクル”を広く知っていただけたと思います。

◎「由利本荘市 科学フェスティバル」11月1日(土)

11月1日に由利本荘市総合体育館にて行われた科学フェスティバルへ出展しました。菜種の搾油機と簡易的な濾過装置を展示し、来場の皆さんに菜種の搾油工程から精製までを見ていただきました。中には油かすの排出口にくぎ付けの子どもさんが何人もいました。親に催促されても動かず、ひたすら排出口を見つめる子どもたち。そんな子ども達を見て、もしかしたらこれがきっかけとなりこの中から将来菜の花の活動を始める人、または搾油機など装置を開発する人が現れるかもしれないと思いました。科学フェスティバルが来場者それぞれの何かのきっかけになれば開催の意味が大きいと思います。菜の花循環やその活動を広く知って欲しいとの思いがありますが、別の視点での見方ができ、私たちの方がかなり勉強になった出展となりました。



◎「大住小学校 菜の花を活用した校外環境学習 in 秋田県立大学」11月14日(金)

菜の花を活用した校外環境学習会が秋田県立大学秋田キャンパスにて11月14日に行われ、大住小学校の5年生が菜の花プロジェクトの取り組みについて学びました。体験学習では、搾油機から出てくる搾りたての菜種油の味を自分たちで確かめ、それぞれの感想を述べていました。そして肥料・飼料として利用する油かすも実際に手に取り、じっくりと観察をしていました。

また、「菜の花から始まるエコライフとは？」をテーマに講義を受け、クイズ形式の振り返り学習は皆楽しそうでした。菜の花を見るたびにこの校外環境学習の事を思い出し、一人でも多く循環型社会の実現に携わってもらえたらと思います。なお、この時の様子は秋田県の広報紙「あきたびじょん 1月号(3ページ)」に掲載されています。秋田県内の会員の皆様、まだの方はぜひご覧になってください。





あきた菜の花ネットワークの事務局メンバーが、秋田を元気にするため日々奮闘している方からお話を伺い、先進的・独創的な取り組みやアイデアを学ぶと共に、会員の皆様にお伝えいたします。第12回目は、2007年に横手市で設立された道の駅十文字を運営する(株)十文字リーディングカンパニーの小川健吉代表取締役社長と柴田陽子ボランティア代表からお話を伺いました。どのような気持ちで道の駅づくりに取り組んだのか、道の駅は地域にどのような効果をもたらそうとしているかなど、縦横に語っていただきました。

「地域に元気を与えたい！」：小川健吉さん、柴田陽子さん

(株)十文字リーディングカンパニー

○ネットワーク事務局（以下、事務局）：

まず、簡単に十文字地域の特徴について教えてくださいませんか。

○小川健吉さん（以下、小川さん）：

合併した横手市の中でも十文字（旧十文字町）は最も新しい町です。山もなく葦の原っぱが広がっていた地域で、十文字という名の通り、東西南北へ行き来しやすい所でした。国道13号線が通りアクセスがよいこともあり、最近も人口はそれほど減っていません。

○事務局：

道の駅立ち上げの経緯をお聞かせください。

○小川さん：

町長時代から道の駅を作りたいという思いはありましたが、具体的に動き出したのは市町村合併が契機でした。当時、夫婦2人暮らしや独居世帯が増えており、住民が家に閉じこもりがちになる傾向が見え始めていました。彼らに外に出てもらい、地域に元気を与えるにはどうすれば良いかを考えた結果、なんとしても道の駅を作りたいと考えたのです。

○事務局：

道の駅を作るに当たり、こだわった点は何ですか。

○小川さん：

まずは「運営形態」です。建設に至る過程で「公設民営」を義務づけられていた事情もありますが、地域の方から出資をいただき、完全な民間企業として立ち上げたのが私の所属する(株)十文字リーディングカンパニーです。当社は横手市の指定管理者として道の駅十文字の管理・運営を受託しており、直売所「ふれあい直売十文字」から入る手数料と道の駅で商売する各種団体からのテナント料が主な収入源となっています。民営ですので企業努力は欠かせません。例えば、収入源の1つである直売所手数料は

農家さんの売上が伸びなければ増えませんので、魅力的な直売所にすべく力を注いでいます。

第2に「構造」です。この道の駅には、入口が正面に1つしかありません。トイレを入口正面奥に設置し、イベントを行う「多目的ホール」、直売所、レストランを、用を足す際に必ず目に入るようにしました。この構造にした結果、道の駅に来るお客様が駅内の各テナントに立ち寄りようになりました。

第3に「おもてなし」です。せっかく道の駅に立ち寄っても、そこでお客様が満足感を得られなければ意味がありません。ですので、心からのおもてなしのできるスタッフの育成を進めています。スタッフは若い人も多く、お客様を満足させるにはどうすれば良いか、直売所に並ぶ野菜をより魅力的に見せるにはどのように並べれば良いか等々（人前で歌うこともその一環）、「道の駅」スタッフとして明るく振る舞い、自ら考え動くことのできる人材を育てたいと考えています。アルバイトからのスタートになりますが、きちんと努力し成長すれば正社員になることができます（今いる9名の正社員のうち6名はそういう方です）。

また、ボランティア会の役割も重要です。活動しているのは5~6人で、毎週水曜日の午前中は「歌う会」、午後には折り紙教室を開催しています。この活動は7年間続けています。水曜日以外にも観光シーズンの土日などはお客様に対して地域の案内をしていただいています。

第4に「ふれあい」です。道の駅に入っただけで正面にある「多目的ホール」がその役目を果たしています。スペースの利用料は一切いただきませんし、お金をとるイベントも実施しません。使いたい人が使いたい時に気軽に使っていただくスペースです。水曜日のイベントはレギュラーの方もおりますし、

飛び込みで参加される人も結構おります。参加される方の素性は問いませんし、誰でも参加しやすい場づくりを心がけています。

○事務局：

道の駅を交流の拠点にすることを通じて、地域の人々に元気になって欲しかったということですか。

○小川さん：

それが基本にあることは確かです。とはいえ、単に交流すれば良いということではなく、その結果地域に「カネ」が落ちることも、人々が元気になるためには重要です。そこで重要になるのが「競争」です。

○事務局：

競争ですか。

○小川さん：

そうです。直売所を例にとると、出荷会員である農家さんは皆さん向上心が高く、日頃から切磋琢磨しており、直売所に出荷される野菜や果物、加工品等のレベルが年々上がっています。その結果、現在では秋田県内の道の駅でも屈指の売上を誇るまでになっています。また、道の駅周辺には複数のスーパーが立地しており、店内には地元野菜コーナーも設置されています。そこにも出荷している会員さんもあり、直売所は会員に選ばれる売り先になる必要があります。そして、スーパーにはない価値を提供し、お客様に選ばれる直売所になることが重要です。

○事務局：

なるほど。

○小川さん：

道の駅は、地元十文字の方々に支えられていることは確かですが、「駅」ですからふっと立ち寄ったお客様に対しても心からのサービスを提供することが求められます。それは普段から心がけていなければできませんし、見えない部分で努力を積み重ねることが必要です。そしてそれこそが他の道の駅との差別化にもつながると考えています。歌を歌ってあげたり、さりげなくコーヒーをすすめてみたり、できることは色々あります。

○事務局：

小川社長の理想は限りなく高いですね。そのもとでボランティアをしている柴田さんはいかがですか。

○柴田陽子さん（以下、柴田さん）：

小川社長の言う「ふれあい」を実践しており、「癒しの空間づくり」に取り組んでいます。週1回の歌う会にはその場のお客様もお誘いし、毎回15人くらいで歌っています。最初は簡単な体操から始め、

初めての方も入り込みやすい雰囲気づくりを心がけています。「ホール」では旅人の方のハーモニカリサイタルを開催したこともあります。

○事務局：

他にはどのようなことをされていますか。

○柴田さん：

土日で時間が空いている時には、道の駅に来て十文字周辺の観光案内をしています。また直売所においては非農家としての立場から消費者視点で農家会員の皆さんに意見を言っています。道の駅ができたから、ボランティアをしていたからこそ出会った方が地域内外にたくさんいます。出会いが全ての基本であり「売る」「食べる」はその次に来るものです。「一期一会」を大切に、「心がとろける」ようなひとときを今後も提供していきたいと思います。

○事務局：

まさに人が集まる「駅」としての役割を果たしているのがここのですね。さて後はどのような役割を果たしていきたいですか。

○小川さん：

実は十文字地域には目立った観光名所がありません。むしろこの周辺にたくさんの環境資源があります。今後は周辺地域への動線づくりに努め、県南の観光案内拠点としての機能を果たしていければと思います。

地域をどうすれば元気にできるか、どうやったら地域の人が集まってくれるか。金儲けも大事ですが、それだけを考えないで、スタッフ、会員さん、ボランティア、そしてお客様、道の駅に関わる全ての人がふれ合い、元気になれるような「場」に、道の駅がなっていって欲しいと考えています。

○事務局：

本日は本当にありがとうございました。

☆☆☆【事務局所感】お話を伺って☆☆☆

・紙面の都合で内容をかなり端折りましたが、少しでもお二方の熱い思いが伝われば幸いです。道の駅十文字にしかないオンリーワンの価値をどのように創りだし、道の駅に集う人たちに最高の満足感を与えるにはどうするかを日々考えている小川さん、柴田さんに感服しました。（渡部岳陽）

・個人的にもよく足を運んでいた道の駅十文字…いつどの時間に行ってもたくさんの人々があふれている道の駅だと思っていました。その答えが今回の取材で分かった気がします。

（鈴木加代子）

☆寒ざらしそばと新どぶろくを楽しむ会 開催します

2月20日にハーブワールド AKITAにて「寒ざらしそばと新どぶろくを楽しむ会」を開催します。鳥海高原産そば粉を100%使用した十割そばと、秋田ニューバイオファーム特製のどぶろく、そして数々のお料理をこの機会にお召し上がりください。

場所：ハーブワールド AKITA
日時：平成27年2月20日（金）
時間：18:00～20:30
料金：3,500円（消費税込、ソフトドリンク代込）
※アルコール類は別途料金

☆☆☆問い合わせ先☆☆☆

NPO 法人あきた菜の花ネットワーク TEL：0184-44-8625
ハーブワールド AKITA TEL：0184-33-4150



限定100名様となっておりますので、申し込みはお早めをお願いいたします。皆様お誘い合わせの上お越しください。

☆鳥海高原スノートレッキングツアー 開催します

2月14日（土）そして3月14日（土）に「鳥海高原スノートレッキングツアー」が行われます。鳥海高原の積雪は3メートル近くにもなり、一面の銀世界となる場所です。いつも恵みを受けている鳥海高原に容赦なく降り積もる雪を楽しもうと、由利本荘市歩こう会と共催し、冬のイベントを始めました。主な内容はスノーモビル乗車とスノーシュートレッキング！それぞれインストラクターがついていますので、安心して参加していただける内容となっています。詳しくは事務局 0184-44-8625までお問い合わせください。

由利本荘市内でのイベントとも重なっています。2月14日（土）は「やしま雪夜の冬まつり」（17:00～20:00）が行われ、3月14日（土）には「由利本荘ひな街道」を市内各地で楽しむことができます。鳥海高原でのスノートレッキングツアーとあわせ、由利本荘に足を運んでみませんか？



日 時：2月14日（土）、3月14日（土）
各午前10時集合（午後3時終了予定）

集合場所：秋田県由利本荘市南由利原 スノーモビルランド

内 容：スノーモビル、スノートレッキング

参加料：¥3,000（スノーモビル乗車代、スノーシュー備品、昼食代、入浴代、保険料等込）

お申し込み先：由利本荘市歩こう会 富樫さん TEL：090-2279-4521

※申込者多数の場合は早めに締め切る可能性があります。

♪♪♪1月17日開催の様子♪♪♪

実は1月17日に第1回目を開催済みです。会員の皆様へのご紹介が遅れましたが、初開催ということもありません。歩こう会メンバーの方へ声をかけさせていただきました。写真のようにそれぞれのコース上を走り、歩きます！個人ではなかなか冬の雪山を歩く機会がないと思いますので、ぜひご参加ください！



第6回鳥海高原菜の花まつり 開催日決定！

第6回鳥海高原菜の花まつり開催期間

日時：平成27年5月26日（火）～6月4日（木） 午前10時～午後4時

☆イベント開催日：5月30日（土）・31日（日）☆

場所：秋田県由利本荘市矢島町城内字桃野、南由利原高原

毎年多くの方にご来場いただき感謝いたします。今年も上記日程にて開催します。春もまだ先のことですが、皆様お誘い合わせの上ご来場ください。お待ちしております！



○ボランティア募集中○

期間中会場整備など、お手伝いをしてくださるボランティアの方を募集しております。

お申し込み、お問い合わせは事務局までお願いいたします。

よろしくお願いいたします。



◎パンフレットできました！

NPO 法人あきた菜の花ネットワークの紹介パンフレットを作成しました！菜の花プロジェクトや活動紹介など菜の花ネットワークに関して紹介しています。今回のニュースレターと一緒に同梱しております。会員の皆様もどうぞ今後の活動にお役立てください。

ご希望の方はお手数ですが、事務局までご連絡をお願いいたします。希望枚数を郵送いたします。



◎Twitter & Facebook 開設！

現場からの情報発信に対応すべく、NPO 法人あきた菜の花ネットワークとして Twitter と Facebook のアカウントを取得し開設いたしました。事務局側でもまだ不慣れな点があり、なかなか思うようにいかない時もありますが、この2つのツールを使用してこれからは様々な情報を発信できればと考えています。

会員の皆様の中にもすでにユーザーの方がいらっしゃると思います。どうぞ登録をお願いいたします。

Twitter : @NanohanaNetwork

Facebook : <https://www.facebook.com/AkitaNanohanaNetwork>



◎4月から事務局の住所が変更となります

平成27年4月1日より、由利本荘市の施設「鳥海山麓地区総合案内所及び矢島つどい公園」指定管理者となりました。それに伴い下記住所へ移転いたします。4月1日以降は下記住所へお願いいたします。（電話番号の変更はありません）

〒015-0411

秋田県由利本荘市矢島町城内字八森下466番地3

鳥海山麓地区総合案内所内

なお、詳細につきましては次号にてご案内させていただきます。よろしくお願いいたします。

＜編集後記＞

○秋田の菜の花の取り組み（写真）は様々な媒体で取り上げられるようになったと感じています。サザエさんのオープニング、JR東日本の社内誌、地球環境基金のカレンダー等々、菜の花を咲かせ続けることが取り組みの原点であり、それをベースにしてこそ多様な活動へ展開できると思います。県内各地で栽培に取り組んでいる会員の皆さんに改めて敬意を表します。（渡部岳陽）

○本来は11月発行予定でしたが、今回は vol.12・13 の合併号としてお届けする形となりました。1月の発行となってしまいました。道の駅十字さんへの取材は秋…。季節が変わってしまいました。本当に参考になるお話をたくさん伺うことができました。“また来たい” “来てよかった” となるように工夫している点は、菜の花まつりなどでも活かせると思います。（鈴木加代子）